



～錫器製作の面白さを伝えて後継者確保に繋げる～

事業実施団体：錫器事業協同組合

伝統的工芸品の品目：大阪浪華錫器

産地の現状・課題

「大阪浪華錫器」の素晴らしさを伝えていくには、「錫」が持つ特徴や「技法」を知っていただくことが重要です。これにより、産地の将来を担う後継者の獲得・育成にもつながると考えています。



補助事業の取組

「伝統産業」を知ってもらう機会が少ないため、ものづくりに興味がある若者に錫器への関心を集めることが重要と考えています。そこで、大阪市立工芸高等学校において製作体験を実施しました。現役の伝統工芸士や職人から製作体験の指導を行うことによって、ものづくりの深さ・良さを知らせ、知名度の向上につなげることができました。

補助事業の成果

- 工芸系の学科をもつ高校で製作体験を実施。高校では「1日製作体験」を実施し、合計で21名が参加しました（令和3年度）
- 製作体験の後、参加者から企業見学の希望も多く、その後、実際に毎年1～2名が組合内企業に就職し、工芸士への一歩を踏み出して日々頑張っています。



今後の取り組み

製作体験の参加者から就職希望があり、実際に毎年1～2名が組合内企業に就職していることから、この補助事業で実施している製作体験の意義は大きく、継続していくこととしています。



連絡先

団体名：錫器事業協同組合

住所：大阪市東住吉区田辺6-6-15 大阪錫器(株)内

電話番号：06-6628-6731



講義風景



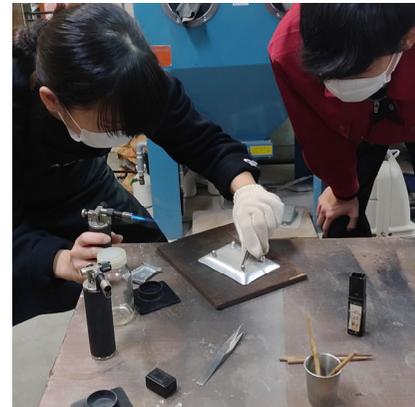
鑄込の様子



キサゲの様子



成形の様子



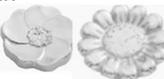
ロウ付けの様子



完成品

制作体験参加者VOICE

- ・1・2年生で参加できなかったから最後に体験したかったので、参加できてよかった。
- ・錫を流し込むのが初めてだったので、緊張した。錫はすぐ溶けて、すぐに冷めるので見ていて楽しかった。
- ・伝統工芸士になるために勉強しておくことはありますか？
- ・将来の為に、錫以外の色々な素材も知りたい。
- ・思うように模様がつかなかったし、手が痛くなったけど、1枚の板がお皿になるのに驚いた。
- ・鑄込みをさせてもらってスピードや温度が大切だと知った。
- ・普段では体験できないことを学べて、これからの参考になった。



錫器の製造工程

1. 鑄込み

【溶けた錫を型に流します】

金属の中でも柔らかい金属で、約99.9%の錫は人の手でも曲げられます。
融点は約230℃と低く、直火でも溶けてしまいます。
商品によって錫を型に流して取り出す時間は違っているので、取り出すタイミングは職人の感覚次第です。

工程 1

2. ロクロ

【表面や内側を削ったり、口元の形を整えます】

商品によって刃を変えて表面や口元を削っていきます。
ロクロを始めたばかりの職人は、まずはめ木に商品を据えることもとても大変な作業となります。
力のいる作業で、少しでも気を緩めることのできない工程です。

工程 2

3. ロウ付け

【タンポの口やジョッキの取っ手を付けます】

ロウ付けの難しいところは火を近づけすぎると溶けてしまうことです。
商品によって火の大きさを変えてロウ付けをしています。
ロウ（接着用錫）が多すぎると見栄えが悪くなるので、小さなロウを何度も分けて付けていくのがコツです。

工程 3

4. 絵付け

【錫器の表面に絵を描きます】

絵付けは下書きなしで、フリーハンドで描いていきます。
全面に描く場合は、手に塗料が付いて他の面を汚さないようにすることに気を付けなければなりません。
ベテラン職人の絵に近づくためには、何度も描いて慣れる必要があります。

工程 4



錫器の魅力

Q.錫とは？

融点が低く、金属のなかでは柔らかい金属です。

Q.錫器ならではの魅力は？

- ★熱伝導がよくて、冷たい飲み物はすぐにその温度になることです。
- ★水やお酒がおいしくなることです。
- ★加工しやすい金属で、手になじむ金属であることです。
- ★茶壺は密封性がよいので、お茶の葉が湿気ないことです。

